

中京病院 生後41日、心手術成功…閉鎖2動脈にバイパス

毎日新聞 2017年9月13日 14時03分(最終更新 9月13日 15時49分)



非常にまれな先天性心疾患の新生児に対する心臓手術に成功し、記者会見する執刀医の中京病院の桜井一・心臓血管外科部長＝名古屋市南区の中京病院で2017年9月13日午前11時29分、木葉健二撮影

中京病院(名古屋市南区)は13日、これまでは心臓移植しか救命例のない重度の心臓病で生まれた、生後41日の男児＝愛知県在住＝の心手術に成功したと発表した。現在4カ月の男児は同日退院し、両親が医師とともに会見した。

病院によると、男児は4月、全身から心臓に戻った血液を肺に送る肺動脈と、心臓に血液を送る冠動脈が二つともふさがった状態で生まれた。2カ所の閉鎖は極めてまれで、世界でこれまでに15例程度報告され、生存できたのは生後1カ月までに心臓移植をした2、3例だけという。

新生児の心臓移植は現実的に難しいことから、病院は両親と相談の上、二つの閉鎖部分をそれぞれ人工血管でつなぐバイパス手術を実施した。経過は順調で、術後7日には人工呼吸器を外すまでに回復した。今後は2歳ごろに最終的な手術をするという。執刀した桜井一・心臓血管外科部長は「心機能が悪化する中、最も重い症例を念頭に置き、早期に治療方針を決めたことが大きかった。今後、同様なケースも手術で救命できることが示せたと思う」と話した。

父「我が子の強さを誇りに」

会見には、ともに20代の両親が男児を抱いて出席した。

母親は「退院のこの日が迎えられると思っていなかった。うれしい。感謝しています」、父親は「困難を乗り越えてくれた我が子の強さを誇りに思っています」と笑顔を見せた。

【太田敦子】

生後41日 心臓手術成功 中京病院

2017年09月14日 読売新聞

中京病院(名古屋市南区)は13日、生まれつき重い心臓病のある生後41日の男児に対するバイパス手術が成功したと発表した。同病院によると、これまで心臓移植による2、3例しか救命例がない難病という。男児の退院に合わせて行われた記者会見で、両親は「うれしい気持ちでいっぱい」と喜びを語った。

発表によると、男児は愛知県内の20歳代の両親の子で、4月、心臓から肺に血液を送る肺動脈と心臓に血液を供給する冠動脈がともにふさがった状態で生まれた。このため、心臓に送り込まれる酸素が少ない状況が続いていた。

病院によると、肺動脈閉鎖と冠動脈閉鎖が合併して起きるのは極めてまれで、心臓移植を除けば、生後間もない乳児で助かった事例はないという。国内では新生児に適合する臓器の提供者が現れる可能性が極めて低いため、同病院は、両親の希望を聞き、大動脈と右心室を人工血管でつなぐなどのバイパス手術を実施。術後7日で人工呼吸器を外せるほど回復し、その後の経過も良好という。

男児は現在4か月で、両親は「こんな日が迎えられるとは思わなかった。手術を乗り越えた我が子の強さを誇りに思う。今後の生活が楽しみです」と安堵の表情を浮かべた。

執刀した桜井一・心臓血管外科部長は「心臓移植以外では、世界初の救命例ではないか。同様の疾患を持つ子に、こういう手段があることを提示できれば」と語った。

2017年09月14日 Copyright © The Yomiuri Shimbun